

# 医療ヘリ 広域で威力

## 広島県半年170件 年間目標上回るペース

広島県は18日、5月に導入した医療用ヘリコプター(ドクターヘリ)の半年間の運用実績をまとめた。消防機関の要請に応じた出動は170件。年間目標とする300件を上回るペースとなっている。全体の4分の1は山口、島根など他県の患者が占めており、県境を越えた患者搬送にも威力を発揮している。(門脇正樹)



広島ヘリポートを拠点に患者を搬送する広島県のドクターヘリ

## 4分の1は県外出動

広島県のドクターヘリの半年間の運用実績

県	消防機関	現場救急	施設間搬送	出動後キャンセル	計	未出動
広島	広島市	13	3	1	17	6
	呉市	3	1	0	4	4
	三原市	8	2	1	11	7
	尾道市	2	1	3	6	0
	大竹市	0	0	0	0	0
	東広島市	19	3	5	27	6
	廿日市市	2	0	0	2	1
	安芸高田市	14	0	0	14	0
	江田島市	17	0	1	18	4
	府中町	0	0	0	0	0
山口	北広島町	4	0	0	4	3
	備北地区	15	6	1	22	4
	福山地区	0	1	0	1	0
	岩国地区	2	0	0	2	0
	柳井地区	0	1	0	1	4
島根	光地区	0	0	0	0	0
	下松市	0	0	0	0	0
	周南市	0	1	0	1	0
	山口市	0	0	0	0	0
	雲南	0	0	0	0	0
高知	江津邑智	11	3	1	15	6
	浜田市	6	0	7	13	13
	益田地区	8	2	1	11	3
高知市	0	1	0	1	0	
合計	124	25	21	170	61	

県によると、5〜10月には、事故などの現場近くに231件の出動要請を受け、天候不良や出動中で対応できなかった61件を除く170件の搬送に出動した。消防機関別に出動件数をみると、東広島市が27件と最も多く、備北地区(本部・三次市)22件、江田島市18件、中国地方5県で協定を結んだ相互乗り入れに基つき、島根県に39件と続いた。内容別では、谷仁秀次長は「中山間地域での救急活動は時間との闘い。広島県の援を頼りにしている」と話す。

広島県のドクターヘリの飛行時間



ヘリは原則午前8時〜午後5時、県が旧広島西飛行場跡地(広島市西区)に設けた広島ヘリポートを拠点に運用。医師や看護師を乗せて出動する。離着陸地点は県内に402カ所あり、半径70キロなら20分、100キロなら30分で着く。県市からは今月、離着陸地点の新たな候補地として廃校の校庭など97カ所の報告があった。県医療政策課は「目的地のそばに離着陸できず、地元協力で休耕田やフェリー桟橋を利用したこともある。より多くの離着陸地点を確保できるよう市町や消防機関に働き掛けたい」としている。